



講演に耳を傾ける横浜町の児童ら

ノーベル賞受賞者はどんな子どもだった？ 生い立ち学び 科学に関心

児童生徒ら対象に講演会

横浜

横浜町教委（柏谷弘陽教育長）は四日、子どもたちの自覚を促そうと、町ふれあいセンターで教育講演会を開いた。町内全校の児童生徒ら約四百八十人がノーベル賞受賞者の生い立ちを学び、科学への関心を膨らませた。

一九九〇年から九二年まで旧科技庁・青森原子力企画調整事務所

長を務め、現在は文科

省科学技術政策研究所

長の和田智明さん（五七

）が「科学をどう学ぶか

ノーベル賞と日本人」と題し講演した。

児童らは、二〇〇二

年に化学賞を受賞した

田中耕一博士が、小学

四年のときに「自分の

力でやってみることに

必要は、今でもどんな

に進歩した未来でも同

じことだ」と作文に書

いていたことを知り、

もの見方の鋭さにび

つくり。

白川英樹博士（二〇

〇〇年、化学賞）が中

学三年の時にプラスチ

ックの研究を志し、野

依良治博士（〇一年、

同）が小学六年のとき

にナイロンに興味を引

かれたことも分かり、

何かに関心を持つこと

の大切さを感じた様子

だった。

和田さんは、国内の

研究者百人にアンケート

した結果などを基に

「数学や理科の問題を

解くには、まず国語を
しっかり学んでほし
い」と呼び掛けた。

理科の実験が楽しく
て好きという横浜小四
年の深井一将君は「話
を聞いてももっとちゃん
と勉強しようという気
になった」と話した。

（館花光秀）

東西南北

消火器の使い方学ぶ

むつ

むつ市川内町の新町

町内会（沢野正俊会長）の住民約20人がこのほど、新町集

君は「お母さんにとって
もうう大好きなカレーの
材料にしたい」と話して
いた。タマネギは児童が
持ち帰ったほか、市総合
福祉センター「サン・サ

ンホーム」に寄贈する。
「科学の基礎を
今こそ学んで」

敦賀気比高講演会
理数教育の充実に取り



「科学の基礎知識を身につけておくことが重
要」と話す和田所長 10日、敦賀気比高

若狭町の食材を使った給
食メニューを募集するリ
ーフレット

フレットで福井梅などを例
に挙げているが、あくまで
も参考情報という。「私た
ちも知らないような思いが
けない食材の発掘につなが
れば」と子どもたちの自由
なアイデアに期待を寄せて
いる。

応募方法はA3以内の用
紙に文章、イラスト、写真
などで自由に表現する。作



ピ化、採用も

文のみも可。名前、住所、

連絡先を明記し〒919-1
1393 若狭町中央1-
1 若狭町商工観光課内
「日本一の給食づくりプロ
ジェクト係」まで。問い合
わせは同課 0770
(45)9111。

組んでいる敦賀気比高は
10日、同校で科学講演会
を行った。文部科学省科
学技術政策研究所の和田
智明所長は「心身の健康
を維持し、若いときに科
学技術の基礎知識を身に
つけておくことが重要」
と強調した。

同校2年生と付属中3
年生計74人を前に、和田
所長は「ノーベル賞・国
際級研究人材の育成のため
に」と題し講演した。

まず「日々科学は進歩
している。ノーベル賞をと
った発見は、さまざまに分
野で実用化されていると
前置き。昨年ノーベル物理
学賞を受賞した益川敏英
さんから国内外受賞者の生
い立ちなどを例に挙げ、
「幼少のころから理科に興
味を持ち、研究者になっ
た。自分の人生は自分で
決めてほしい」と訴えた。

研究者だけでなく、社
会で活躍する人の条件と
して、「自主的に勉強し
視野を広げること。コミ
ュニケーション能力も大
事」などと話した。

講演後、中学生を交え
たグループごとに、和田
所長に対する質問内容を
考えた。今、一番注目し
ている研究は何か」との
問いには、同所長は「皮膚
の細胞から臓器を作るこ
とができるiPS細胞の
研究」などと答えていた。

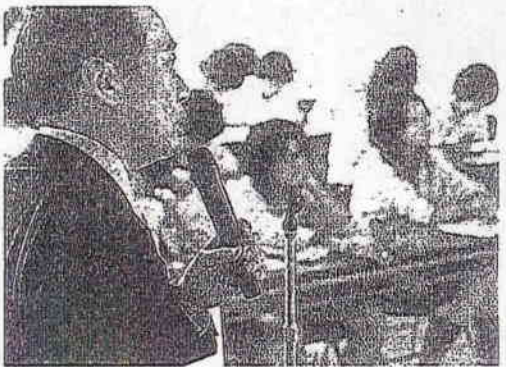
のメニューの中か
ハランスやコスト
慮し、実際に町内
の給食へ採用も検
討している。

町商工観光課は
これについて、リー

科学者の資質 生徒学ぶ

泉丘高 科技政策研究所長が講演

ノーベル賞や国際級の研究
人材育成について講演する
和田所長（金沢泉丘高で



科学者を指すため
に必要な資質などに
ついて学ぶ特別講座が九
日、金沢泉丘高校で開
かれ、理数科の一、二
年生約八十人が聞き入
った。

科学技術政策研究所
長の和田智明さんが
「ノーベル賞・国際級研
究人材の育成のため
に」をテーマに講演。

昨年ノーベル物理学賞
を受けた益川敏英さん
らの生い立ちを紹介し
た後、「科学に対して、
親が子どもの興味にし
っかり応えてやること
が重要」と説明した。

研究者になる条件に
ついては「不撓不屈の
精神を支える体力やコ
ミュニケーション能
力、正義感と品格だ」
などと強調した。

講演後、生徒からは
「日本の子どもが科学
に対する関心が他国に
比べて劣ってるのは何
が原因ですか」などと
質問していた。

(山根勉)

6/10(水) 北陸中日新聞 16面



「みんなに可能性がある」という和田さんの言葉に真剣に耳を傾けていました。

特別じゃない!

「可能性はみんなに!」

町教育委員会（柏谷弘陽教育長）では、子供を地域総がかりで育てようと打ち立てた「元氣な横浜っ子十五条」の一つ、「親子で科学にしたしみましよう。みんなで科学的思考力を養いましよう。」の実践につなげようと、3月4日（水）ふれあいセンターにおいて、町内すべての児童生徒およびその保護者らを対象に、「教育講演会」を開催し、会場には約450人が集まりました。

講演会では、「科学をどう学ぶか」ノーベル賞と日本人」をテーマに、文部科学省科学技術政策研究所長の和田

智明さんが、ノーベル賞受賞者の生い立ちやアンケート結果などをもとに、科学者になるために大切なことなどについて講演が行われました。

講演の中で和田さんは、ノーベル賞受賞者の方々は最初から決して特別な人であった訳ではなく、みんなと同じように、いたずらもすれば外で虫採りをするなど、良く遊んだ普通の子供であったことや、テストの点数だけではない。大切なのは、良く本を読むこと。科学が好きになること。好きならあきらめないこと。の3点であること。

また、そこには子供たちだけでなく、子供たちを取り巻く環境、とりわけ親や先生など身近な大人の影響が大き

かったことなどが話されました。

最後に、和田さんは「資源の少ない国では科学技術はとても大切な分野です。科学や数学が嫌いな人が多い傾向にあります。科学を嫌いな人は、その原因を突き止め、好きになってほしい。そして、今日ここにいる子供たちの中からノーベル賞受賞者が出ることを期待しています。」と述べられました。

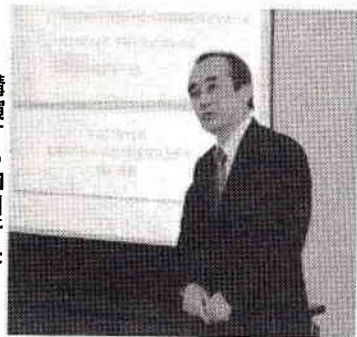
講演を聞き、3月卒業の横浜中学校3年の鳥山俊之くんは「挫折してもあきらめないで努力すれば、自分たちでもノーベル賞をとれるんだということがわかり勇気ができました。」と話していました。

Ⅱ「研究人材の育成」Ⅱ

和田科政研所長が高崎高校で講演

科学技術政策研究所の和田智明所長は12月1日に高崎高校で「創造性豊かな研究人材の育成を目指して」と題して講演を行った。高崎高校は平成14年度より7年間、スーパーサイエンスハイスクールに指定され、科学技術系人材育成に係る研究開発に取り組んでいる。当日は約60人の教員の参加があった。講演では、日本の将来に科学技術の果たすべき役割や日本の研究者の現状、科学技術を担う人材の育成、理科・数学に生徒の興味・関心を喚起するための国の施策などについて、同研究所の調査結果の中の「ノーベル賞・国際級研究者の研究者になった動機」などを例にとりながら説明が行われた。海外と比較したデータ(海外への留学生数の著しい減少など)の説明には驚きの声の漏れ、海外の研究者からの日本への提言にはしきりにメモをとる姿が見られた。

講演後、参加者からは「世界との比較などの調査データ



講演する和田所長

が参考になった」、「国を支えるにはやはり教育が重要だと思う。本日の話を明日からの教育の現場に活かしていきたい」などの声が聞かれた。

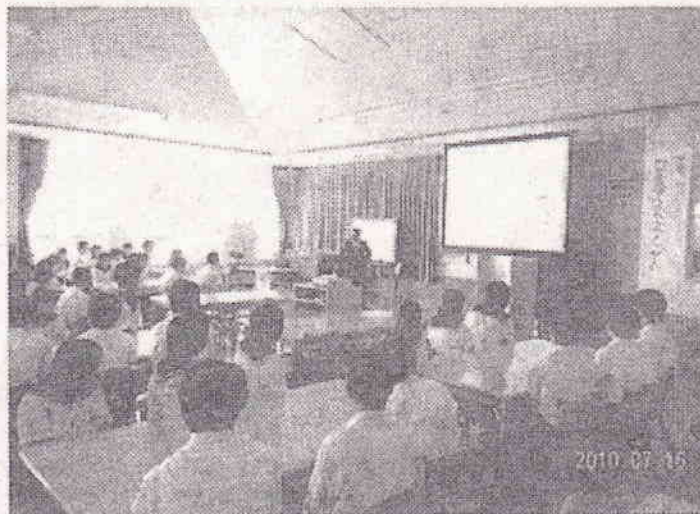
◆和田科学技術政策研究所長◆

＝ 金沢市の中学校で講演 「科学を志す人たちへのメッセージ」 ＝



プロジェクターを使って講演する和田所長

科学技術政策研究所の和田智明所長は7月16日に金沢市清泉中学校で「科学を志す人たちへのメッセージ」と題したテーマで中学3年生176人を対象に講演を行った。この講演は石川県教育委員会が今年から始めた中学校サイエンス教室の活動の一環として開催されたもの。



中学3年生176人が熱心に聴講

和田所長はノーベル賞を受賞した科学者などが科学に関心を抱いたきっかけを説明するとともに、科学技術分野で日本がアジア諸国に追いつかれそうになっている現状を解説し、「日本人科学者が世界で活躍するためには英語力をしっかり身につける必要がある」と強調した。また、学問上の知識だけではなく「心身の健康、視野の広さも大切」と呼びかけた。生徒たちは初めて聞く科学者や研究者を取り巻く国際的状況、さらには科学者を目指すための心構えについて熱心に耳を傾けていた。

Ⅱ 和田科学技術政策研究所長 Ⅱ

石川県SSH高、福井県中高一貫校 「ノーベル賞級科学技術人材の育成」で講演会

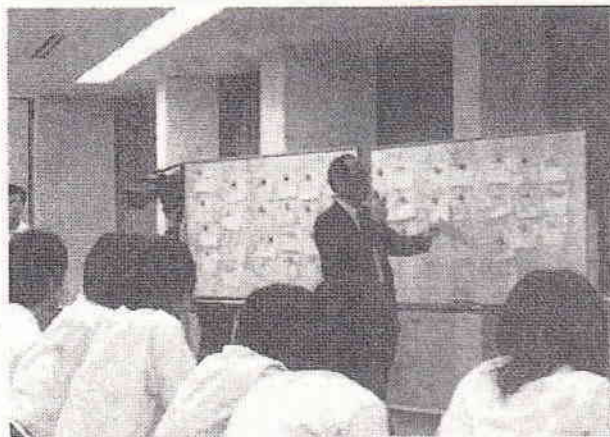
科学技術政策研究所の和田智明所長は、6月9日にスーパースペースハイスクールに2003年度から指定されている金沢泉丘高校で、6月10日に中高一貫高の福井県・敦賀気比高校で、「ノーベル賞・国際級研究人材の育成のために」というテーマで講演を行った。

金沢泉丘高校では理数科の2年生80人を対象に講演、ノーベル賞・国際級研究者が研究

者になった動機や大学・大学院の研究者育成機能について科学技術政策研究所の調査結果をもとに説明が行われた。生徒から「日本の高校生が世界各国に比較して理科・数学嫌になる原因は何か？」などの質問や、女子生徒からは「日本で女性研究者が育たない理由は何か、女性研究者が研究と育児を両立できる時期はいつになるのか？」などの真剣な質問が相次いで出された。



金沢泉丘高校で講演する和田所長



敦賀気比高校で生徒の質問に答える和田所長

また敦賀気比高校では高校生50人と中学生25人を対象に講演、生徒との間で、「日本でこれから重視している研究テーマは何か?」「優秀な研究者になるために、中学、高校でどんなことを心がければいいのか?」などについて熱心な質疑応答が30分以上行われた。